

犯罪の少ない社会を目指して
- 喜連川社会復帰促進センターを訪問して -

開倫塾

塾長 林 明夫

1. はじめに

おはようございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただきありがとうございます。

雨が降ったり止んだりで気温の上がり下がりも激しく、体調を崩しやすいときですので、ぜひ健康に注意してお過ごし下さい。

先週の水曜日 6 月 27 日に、喜連川にある社会復帰促進センターに行かせていただきました。今月は、犯罪の少ない安心・安全な国や社会をつくろうという「社会を明るくする運動」が全国で行われています。そこで今日は、喜連川の社会復帰促進センターを見学させていただいたことをお話させていただきます。

2. 犯罪の少ない社会を目指して - 喜連川社会復帰促進センターを訪問して -

(1) 今度、栃木県に新しい刑務所ができます。日本では今、犯罪を犯す人が非常に増えていきます。そのため、ある一定の期間刑務所に入って過ごさなければならない人も大変増えてきました。その数は、年間で一時期に 8 万人くらいの人数になります。ふつう刑務所には 4 人部屋と 6 人部屋があるようですが、現状は定員オーバーの刑務所が多いようです。そこで、できれば定員の範囲内で収容して、そこで訓練を積むことによって社会復帰を果たしてもらいたいということで、栃木県の喜連川に 2000 名収容規模の刑務所が新しくできました。今のさくら市で、以前には農業土木学園があったところです。

(2) 私は慶應義塾大学の法学部で犯罪学や刑事政策を勉強したのですが、その学生の頃に何回か黒羽刑務所を訪問させていただきました。その黒羽刑務所の支所が農業土木学園で、そこにも何回か行かせていただきました。

農業土木学園は開放的な環境の中に作られていて、大型免許を取ったり造園業をするなど生活訓練・職業訓練に力を入れ、非常に評価の高かったところです。鉄格子がなく、心の中に塀を作って社会復帰を果たしなさいという方針でやっていた学園ですが、平成 11 年になりました。その後、その施設をどうするかということになりました。刑務所に収容しなければならない人の数が右肩上がりで増えてきましたので、それに対応するために新しい刑務所を作ることになり、それが今年完成しました。

(3)この新しい施設は、今年(2007年)の秋頃から使われるそうです。そこで、使われる前に栃木県の経済同友会の未来研究会で視察をさせていただきたいと要請しましたら、おいで下さいとのことでしたので、行かせていただきました。経済団体なので見せていただけたのかもしれませんが、非常に素晴らしい施設でした。名前も 刑務所ではなく、喜連川社会復帰促進センターでした。まだまだ知られていませんが、そこで一所懸命に勉強し、職業訓練をして、社会復帰に向けた対処をするために作られました。2000名の受刑者がここで過ごすようです。お聞きしたところによると、何度も何度も犯罪を犯した人(累犯者・るいはんしゃ)ではなくて、初めて犯罪を犯した人が入るようです。社会に出てから、2度と犯罪を犯さないように、ここで反省し職業訓練を受けさせて、それから社会に復帰させたいということで、この施設ができました。

(4)センター長の先生からごあいさつを受けました。センター長は、以前で言えば刑務所の所長さんです。立派な先生で、必ず社会復帰させるのだという強い意志で、社会復帰促進センターという名前をつけたそうです。今までは国がすべての資金を出し何から何まで作っていたようですが、国の財政も厳しいので、この施設はPFIという方法で作られました。PFIとは、Private Finance Initiative(プライベートファイナンス・イニシアティブ)のことです。公権力の行使などで国が最終的な責任を持ち、最低限の要求水準を満たすものは国が必ず示しますが、これは民間の会社が応募し、総合評価方式で民間の会社が落札しました。非常に厳しい入札があり、セコムという会社が落札したようです。

(5)社会復帰がポイントで、それを民間と公(おおやけ)とが力を合わせてやっていこうという非常に珍しい手法で作られました。山口県にも新しい刑務所ができましたが、同じように民間の資金を導入したPFIという形で作られました。つまり、喜連川の施設は、PFIで作られた全国で2つめの施設だそうです。ここに2000名の方が収容され、今年の10月以降から実際に動き出すようです。国のお金が400億円近く使われ、立派な施設ができましたので、2000名の方がきちんと社会復帰を果たすために使っていただきたいと思います。

3. おわりに

今日は、さくら市喜連川に社会復帰促進センターができましたので、紹介させていただきました。ぜひ、皆様も、センターで行事などが開催されましたら、お訪ねいただき、犯罪のない世の中をどのようにして作ったらよいかをお考えいただければありがたいと思います。

- 2008年10月7日加筆 -